

## 友達と語り合えるベンチをつくろう

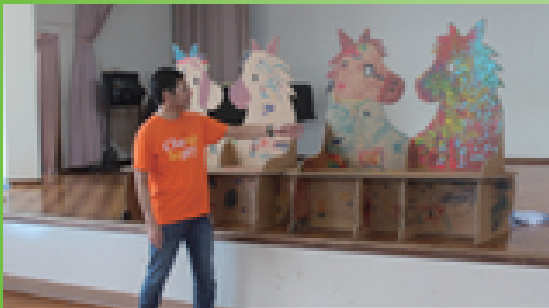
上越市立大手町小学校

実施学年：1年  
生徒数：44人（2学級）

実施教科：生活科、図画工作  
実施時間数：5時間

子供たちは、生活科の学習で、ポニーとミニチュアホースの飼育活動を継続して行ってきた。9月、奈良県の「カブリモノ変心塾」を主催しているカブリモノ作家・チャッピー岡本さん（岡本善彦さん）を講師に招き、強化段ボールを使った「ポニーさんのかたちのベンチ」の製作を行った。子供たちが創造性を広げながら友達と語り合うことができるベンチを製作することをねらいとした。

製作したベンチを教室の近くの廊下に置いておくと、ベンチに座りながら友達と話す1年生の姿が見られるようになった。また、引き続きベンチの様子を見ていると、他の学年の子供も座って楽しく話をしていることが分かり、自分たちの製作したベンチが全校の役に立っていることを少しずつ実感していった。そこで、学校内のどの場所にベンチを置くと、自分たちや他の学年の子供がさらに気持ちよく学校生活を送れるか話し合いを行なった。話し合いでは、児童玄関や体育館、図書館などにベンチを設置する意見が出てきた。子供たちは、全校のみんなが行き来する機会が多い場所にベンチを設置すると居心地のよい空間になると考えた。そして、話し合いの結果、1年生が使用している「きぼうルーム（生活科室）」と他の学年の子供が集まる図書館に設置したいという意見にまとまった。設置したベンチには、1年生を始め様々な学年の子供が座って語り合っている。



## 学習のねらい

○友達と協力してベンチをついたり、つくったベンチを学校内のどの場所に置くか話し合ったりすることで、自分たちや他の学年の子供にとって居心地のよい空間について考える。

## 学習活動

- ポニーとミニチュアホースの飼育活動を継続して行う。
- カブリモノ作家・チャッピー岡本さんと「ポニーさんのかたちのベンチ」をつくる。
- つくったベンチを廊下に置き、どのように座られているか様子を伝え合う。
- 学校内を探検して、どの場所にベンチを置くと自分たちや他の学年の子供が気持ちよく学校生活を送れるか考える。
- 話し合いで決定した場所にベンチを設置する。
- ベンチに座っている子供の様子について気付いたことを伝え合う。

## 準備品

強化段ボール、段ボールカッター、マーカー、ブルーシートなど

## 実施場所

1年生教室、体育館、玄関など

# 学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>体育館</p> <p>2 時間</p>	<p>○チャッピー岡本さんから「ポニーさんのかたちのベンチ」のつくり方を習い、友達と一緒に製作する。</p> <p>○「ポニーさんのかたちのベンチ」を製作した感想や座ってみた様子を作文シートに記述する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポニーとミニチュアホースみたいにベンチの色をぬったよ。</li> <li>・友達と一緒にベンチがつくれて楽しかった。</li> <li>・座ってみたら気持ちがいよかったですよ。</li> </ul>
<p>教室 学校内</p> <p>1 時間</p>	<p>○1年生教室の近くの廊下にベンチを置いてみた様子を伝え合う。</p> <p>○自分たちや他の学年の子供のために、どの場所にベンチを設置したらよいか学校内を探検する</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・廊下のベンチに友達と座って、おしゃべりしたよ。</li> <li>・この前、6年生の子が座ってくれていて、嬉しかったな。</li> <li>・人がたくさん集まる場所に置いておくと、他の学年の子も座ってくれるかな。</li> </ul>
<p>教室</p> <p>1 時間</p>	<p>○どの場所にベンチを設置すると、自分たちや他の学年の子供が気持ちよく学校生活を送れるか考える。</p> <p>○決定した場所にベンチを設置する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベンチの1つは、ぼくたちが普段使う「きぼうルーム（生活科室）」に置きたいな。</li> <li>・どこに置くと、たくさんの人に座ってもらえるかな。</li> <li>・勉強の邪魔になってもいけないよね。</li> <li>・図書室なら、本を読む人が座ってくれるからどうだろう。</li> </ul>





## 生徒の作品



## 先生の声

### 実施に当たり工夫した点 苦労した点

生活科で飼育しているポニーとミニチュアホースの形のベンチを製作したことで、ベンチに対する愛着を深めることができたと考える。その気持ちが、自然とベンチに座って友達と話をしたり、他の学年の児童にも座ってもらいたいという思いにつながったりしたと考える。また、学校探検を行い、どの場所にベンチを置くと自分たちや他の学年の子供が気持ちよく学校生活を送れるか話し合う場を設定したことで、居心地のよい空間について考えることができたと考える。

### 児童・生徒の反応

<子供の作文シートから抜粋>

ぼくは、とよしつにベンチをおいたらいいとおもいました。どうしてかという、とよしつにおけば本をよむ人がすわってくれるからです。いままで、とよしつのじめんにすわってよむことがたいへんでした。だから、ベンチをおいたら、たくさんの人がすわってくれるとおもいます。みんながよろこんでくれるとうれしいです。

### 教師の変化 (担当、担当外を含めて)

活動を行う前は、1年生の子供たちにとって、ベンチを学校内のどこに置くか考えることは少し難しいのではと考えていた。しかし、子供たちは、一人一人が置く場所とその理由を考え、話し合うことができていた。学校内の様子や他の学年の児童を考えながら話し合う姿に、他者意識が少しずつ芽生えていることを感じた。